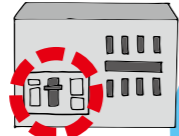


2.地震後の通電火災を防ごう

過去の地震では、停電が復旧し、通電が再開された際に電気器具のスイッチが入ったことで火災が発生しています。これを通電火災と言います。

地震が起きて避難する際は、通電火災を防ぐために、必ずブレーカーを落としましょう。しかし、感震ブレーカーいざという時に忘れず正しい判断・行動ができるとは限りません。火災を防ぐためにも、揺れを感じると自動でブレーカーが落ちる『感震ブレーカー』を設置しておけば安心です。『感震ブレーカー』には、後から別途取り付けタイプのものもありますので、停電時の灯りの確保とあわせて販売店などに相談してみましょう。



停電したときに
点灯する
ライトなどが
あれば夜間も
安心です。



ココもチェック！ 被災後の生活再建のために「地震保険」への加入も

地震保険

地震により住まいが大きな被害を受けるかもしれません。そんなときの生活再建の助けになるのが、地震保険です。加入していれば地震による直接的な住宅の損壊はもちろん、火災や津波で住宅や家財などが受けた被害も一定補償されます。もしものときに備えて、地震保険の加入も検討しましょう。



ガラスの飛散はケガの原因や避難の妨げにもなります。

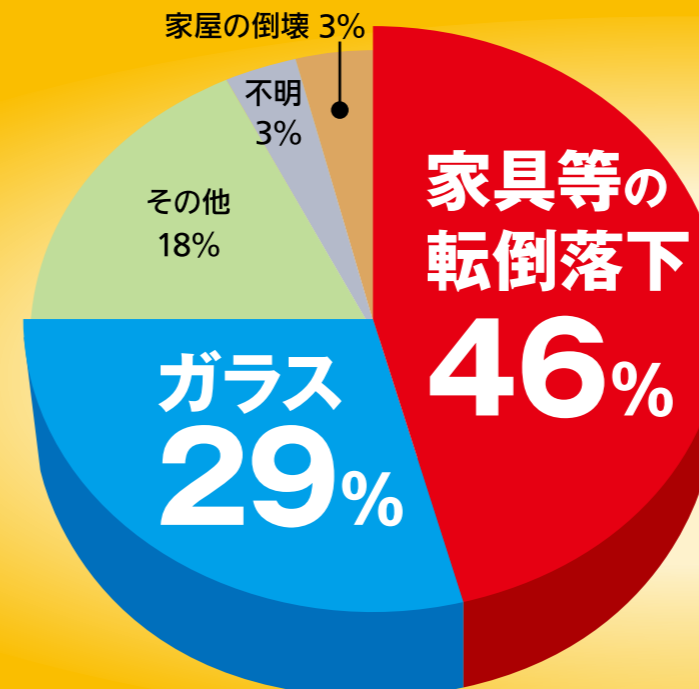
3.ガラスの飛散を防ごう

ガラス飛散防止のフィルムの貼り方

- 1 防水養生しよう**
シートを貼る際に石けん水をたくさん使うので、窓下や床を新聞紙やビニールシートで養生します。
- 2 石けん水を作ろう**
霧吹きの中に水に対して中性洗剤を2~3%入れ、よく混ぜて石けん水をつくりまます。適正な濃度の石けん水を使うことも、コツの1つです。
- 3 ガラス面を掃除しよう**
ガラス面に石けん水をスプレーして汚れを取り除きます。石けん水をふき取る時、雑巾で拭くと糸くずが付く場合があるので、ふき取りはキッチンペーパーがおすすめです。
- 4 ガラスフィルムをカットしよう**
フィルムを窓ガラスの縦横それぞれ3~5cm程度大きめにカットします。あとでセパレーター(フィルム裏)を剥がしやすいように、フィルムとセパレーター両面の角にセロテープを付けておきます。
- 5 ガラスを濡らそう**
ガラス面全体にたっぷり石けん水をスプレーして、石けん水の膜を均一に作ります。コツは多すぎるかなと思うくらい吹き付けることです。

- 6 セパレーターを剥がそう**
セロテープを貼った角から、フィルムが巻きついたりキズついたりしないよう注意し、慎重にセパレーターを剥がしていきます。同時に、剥がしながらフィルム粘着剤面にたっぷり石けん水をスプレーします。
- 7 ガラスフィルムを貼ろう**
フィルムが一番上の両角を指先で軽くもち、左右どちらかの窓枠にそって2~3mm内側にフィルムサイドを上から下まで隙間が均等になるように位置合わせをし、静かにガラスにフィルム全体を貼り付けます。
- 8 水と空気を抜こう**
位置決めが済んだら、フィルム表面全体に霧吹きで石けん水を吹き付けます。片方の手でフィルムがずれないように押さえながら、中心から軽く上下左右に水とエアを抜いていきます。
- 9 ガラスフィルムの余分な部分をカットしよう**
貼り付け後、窓ガラスより大きい部分は窓枠に沿ってカットします。
- 10 最後の仕上げ**
余分な部分のカットが終了したら、もう一度フィルムの表面に石けん水を吹き付けて最後の水抜きをします。枠周りに押し出された水は再度フィルム内に戻らないよう、ペーパータオルやスポンジで吸い取ります。

住まいの防災・減災対策 家具の固定が家族を守る



阪神・淡路大震災のとき
建物の中でのケガのうち
約75%が、家具の転倒やガラスが原因



家具の固定が家族を守る

南海トラフを震源とする巨大地震の発生確率は、今後30年以内に70%程度と予測されており、本市では、最大で震度7の強い揺れが想定されています。

愛媛県の被害想定では家具等の転倒などにより、多くの死傷者が発生すると推計されています。

被害を軽減させるために、家具等の転倒防止対策に取り組みましょう。

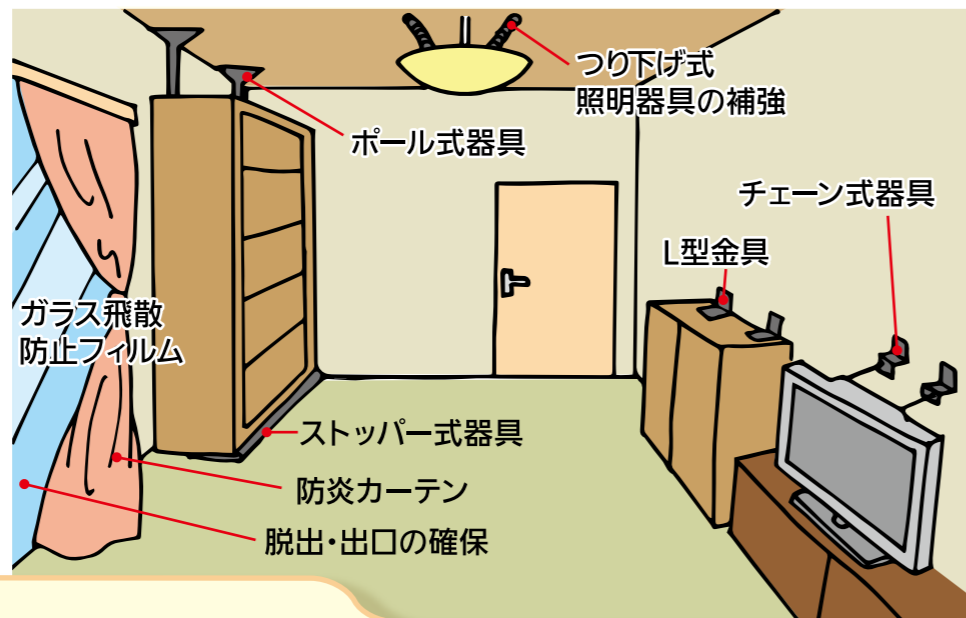


できることから始めよう

1.家具の転倒を防ごう

阪神・淡路大震災では、家具の転倒などでケガ人が多く発生しました。東日本大震災でも、家具が避難路を塞いでしまい、閉じ込められて逃げられなかったなどの報告が数多くありました。家具の転倒は、未然に防ぐことができます。今からできること、すぐにやれることを一緒に考えていきましょう。

いざという時に命を守るため、身近にできる対策として、まず考えてほしいのは、家具の固定です。



①どこから手をつけたらいいの?

では、家の中のいったいどこから家具の固定(転倒防止対策)をすれば良いのでしょうか? 判断の基準は、家族が最も長く過ごす場所から考えていくことです。

右のイラストを見て、家族が家にいる間、どの部屋でどれくらい過ごしているかを想像してください。居間と寝室で長い時間を過ごされているのではないのでしょうか?

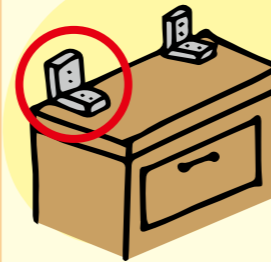
このことを考えれば、家の中では、居間や寝室を優先して対策をしていくのが効果的と言えるでしょう。



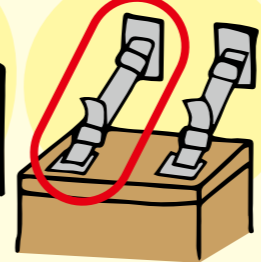
②どんな方法があるの?

家具の固定や転倒防止のための器具には、様々な種類があります。場所や家具の種類によって、適したものを選びましょう。また、設置する際には器具の能力を十分に発揮させるために、必ず守ってほしい設置方法があります。

家具固定器具の種類



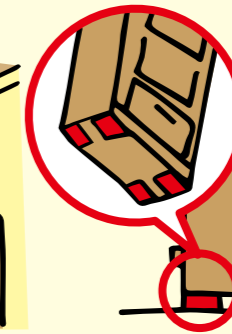
L型金具
家具の固定で最も効果の大きい方法です。壁側のねじ留め位置は、柱や梁がある場所を選び、中心にしっかりと固定しましょう。



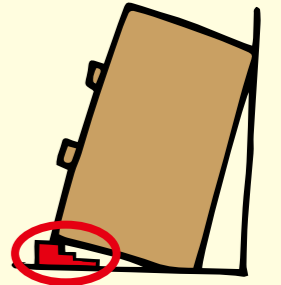
ベルト式
L型の他にも、ベルト式やブレード式などもあります。L型と同じく、壁側のねじ留め位置には注意が必要です。



ポール式
つかえ棒のように使います。天井などの設置面は、柱や梁など強度の強い場所にあたるようにしましょう。ポール式は、家具を壁にくっつけておかなければ効果が出ません。



マット式
家具の底面に貼って使います。ポール式と併用するとより効果的です。マット式には使用期限があるので注意しましょう。



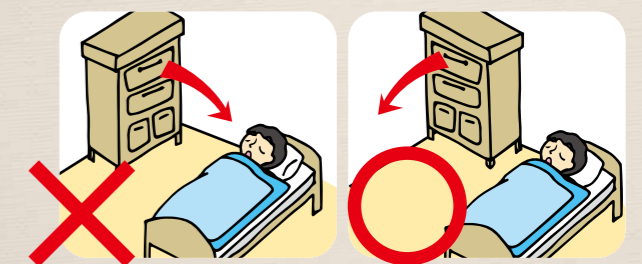
ストッパー式
手前から差し込んで使います。ポール式と併用するとより効果的です。

転倒防止効果の比較

使用条件	器具の効果 → 大				
単独使用	ストッパー式 	ポール式 	L型金具 (スライド式) 	L型金具 (上向き取り付け) 	L型金具 (下向き取り付け)
組合せ使用	マット式 	※家具と天井に十分な強度が必要 	ベルト式 	ブレード式 	※家具、壁面や器具に十分な強度が必要
		※家具と天井に十分な強度が必要 	チェーン式 	ポール式+マット式など、複数の器具を併せて使うと、効果が大きくなります! 	ポール式+マット式

東京消防庁による実験より

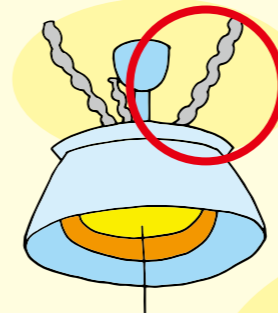
ココもチェック! 家具の置き場所



家具の設置方向を考えて置くだけで、家具の転倒によるケガを防ぐための対策になります。

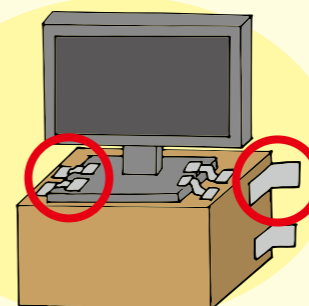
その他の対策チェック

つり下げ式照明器具
チェーンで揺れ防止対策を行う。



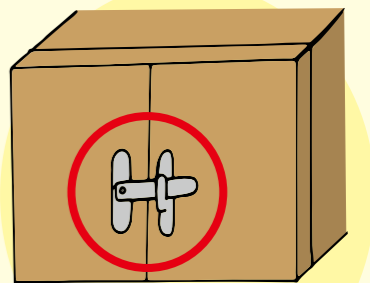
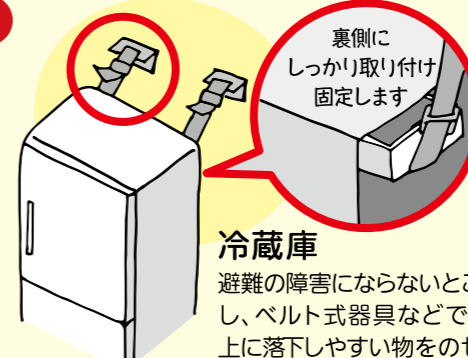
テレビ

テレビ台に着脱式移動防止ベルトなどで固定。台はL型金具などで壁に固定し、底部(または脚)に粘着マットなどの滑り止めを付ける。



冷蔵庫

避難の障害にならないところに設置し、ベルト式器具などで固定する。上に落下しやすい物をのせない。



開き戸

収納物が飛び出さないよう、扉に開放防止器具を付ける。

積み重ね式収納ボックス類

上下を連結金具でつなぎ、L型金具で壁に固定する。上に落下しやすい物をのせない。

